

体験学習の過去からの伝統と未来に向けた変化

南山大学人間関係研究センターは、「広く学際的視野にたった人間関係研究」として、人間関係に関する理論研究、人間関係へのアプローチ方法の実践研究、人間性豊かな関係性と社会の創生に向けた応用研究、に取り組むことを研究目的としています。そして、実践研究や応用研究として、ラボラトリー方式の体験学習や人間性教育の実践と研究を行っています。

ラボラトリー方式の体験学習は、グループ・ダイナミックス研究の祖であるKurt Lewinたちによって1946年に見出されました。そして、翌年1947年に、ラボラトリー方式の体験学習を用いたトレーニングを推進することを目的に、National Training Laboratories for Group Development（現在のNTL Institute for Applied Behavioral Science、以下NTLと略します）がLewinの弟子たちによって設立されました。このNTLを中核として、Tグループや組織開発が発展していき、世界中に広がりました。そして当センターは、NTLの流れを受け継ぐ形で、日本においてTグループやラボラトリー方式の体験学習を実践するとともに、その研究を行っています。

今回の「人間関係研究」の特集は、「NTLと体験学習」です。NTLが設立されてから約75年、日本にラボラトリー方式の体験学習が導入されてから60年以上が経ち、時代背景や環境は大きく変わりました。Tグループやラボラトリー方式の体験学習も、歴史と伝統を引き継いで変わらないところ、これまでの時代の変化に合わせて変化してきたところ、そして、未来に向かって変化・適応していく必要があるところ、があると考えます。

特集では、「NTLと体験学習」というテーマを探究することに有益な3編が掲載されています。特に、センター研究員森泉氏によるダイバーシティに関する論文、土屋氏による体験学習の民主的価値学習に関する論文は、体験学習やNTLの歴史や経緯をレビューしつつ、独自の提言がなされています。

本号では、他にも体験学習や表現に関する3編の論文、2編の実践報告（体験学習のオリジナル実習の開発とその実践結果のまとめ）、パーソンセンタード・アプローチに関する資料1編が掲載されています。これらすべては本センター研究員によるものであり、本センター研究員が積極的に研究活動を行っている表れだと感じています。さらに公開講演会の逐語資料1編を含め、計10編と豊かな内容になりました。是非ご一読いただき、フィードバックがありましたら著者までお知らせいただけると幸いです。

当センターは2000年4月に南山短期大学から南山大学に移管されました。2020年4月は当センターにとって20周年となり、二十歳の記念として20周年イベントを行う予定です。また、来年度の「人間関係研究」は20号となります。未来に向けて、歴史と伝統を受け継ぎつつ、実践と研究の新しいチャレンジをさらに試みていきます。

南山大学人間関係研究センター長 **中 村 和 彦**